

ご議論いただきたい論点

＜論点1＞ 対人支援におけるアプローチについて

- 今後の対人支援においては、
 - ・ 訪れた相談者の属性や課題に関わらず、幅広く相談を受け止める
 - ・ 本人・世帯の暮らし全体を捉え、本人に伴走し寄り添いながら、継続的に関わるという機能を具えた断らない相談支援の機能が必要と考えられる。
- 本検討会におけるこれまでの議論からは、断らない相談支援における基本的な視点として、以下の要素が浮かび上がってきていると考えているが、いかがか。また、他にどのような要素が必要か。
 - ・ 包括的な支援
 - ・ 本人主体・力を引き出す支援
 - ・ 関係づくりの支援
 - ・ 早期的な支援
 - ・ 継続的な支援
- 市町村における「断らない相談支援」体制を柔軟に整備しやすくなるよう後押しする観点から、新たな制度の創設を含め検討が必要ではないか。

＜論点2＞ 「断らない相談」の機能等について

- 「断らない相談」に必要な機能は、以下の3つでよいか。
 - ① 属性にかかわらず、地域の様々な相談を受け止め、自ら対応し、又はつなぐ機能
 - ② 制度の狭間・隙間の事例、課題が複合化した事例や、生きづらさの背景が十分明らかでない事例にも、本人や世帯に寄り添い対応する機能
 - ③ 上記を円滑に機能させるために、多機関のネットワーク構築や、個別支援から派生する新たな社会資源・仕組みの創出、相談支援に関するスーパーバイズや人材育成などを行う機能
- モデル事業においては、
 - ①の機能は、「断らない相談」に関わるすべての相談支援機関が担う
 - ②の機能は、多機関の連携の中核を担う機能を配置した上で、すべての相談支援機関が協働して担う
 - ③の機能は、多機関の連携の中核を担う機能が担うことを想定していたが、今後も同様の考え方でよいか。
- また、モデル事業においては、
 - ①の機能は、住民に身近な圏域において体制を確保する
 - ②及び③の機能は、市町村圏域等において体制を確保する

ことを想定していたが、今後も同様の考え方でよいか。

<論点3>「出口支援」（社会とのつながりや参加の支援）について

- これまでの実践などを踏まえ、包括的な支援体制を構築していく上で、「断らない相談」と一体的に確保されるべき「出口支援」の機能について、具体的なメニューとして何が考えられるか。